



FY21 3Q 決算説明資料

2022年1月28日 東京特殊電線株式会社

1. 決算概要	• • •	P.03
2. FY21配当金および業績予想	• • •	P.09
3. Appendix	• • •	P.11

(百万円、%)	FY20.3Q	FY21.3Q	増減	増減率	増減要因
売上高	12,467	15,791	+3,324	+26.7	<p>売上原価</p> <p>売上高の増収、また、主要原材料である銅地金価格の高騰などが影響し売上原価は増加となった一方で、高付加価値製品の伸長や原価低減の推進に伴い、原価率は1.0ポイント改善している。</p> <p>法人税、住民税及び事業税</p> <p>▲137百万円 (▲325百万円→▲462百万円)</p> <p>法人税等調整額</p> <p>▲232百万円 (▲54百万円→▲286百万円)</p>
売上原価	9,046	11,298	+2,252	+24.9	
(率)	72.6	71.6	▲1.0	－	
売上総利益	3,420	4,492	+1,072	+31.3	
販売費及び一般管理費	1,651	1,846	+195	+11.8	
営業利益	1,769	2,646	+877	+49.5	
(率)	14.2	16.8	+2.6	－	
経常利益	1,836	2,689	+853	+46.4	
税金等調整前四半期純利益	1,839	2,659	+820	+44.5	
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,430	1,895	+465	+32.5	

- ・売上高は15,791百万円となり、前年同期比+3,324百万円（+26.7%）と大幅な増収となった。
- ・売上高増減に含まれる為替変動による影響額+491百万円
（電線・ヒータ分野+260百万円、デバイス分野+231百万円）

構成比

電線・ヒータ分野



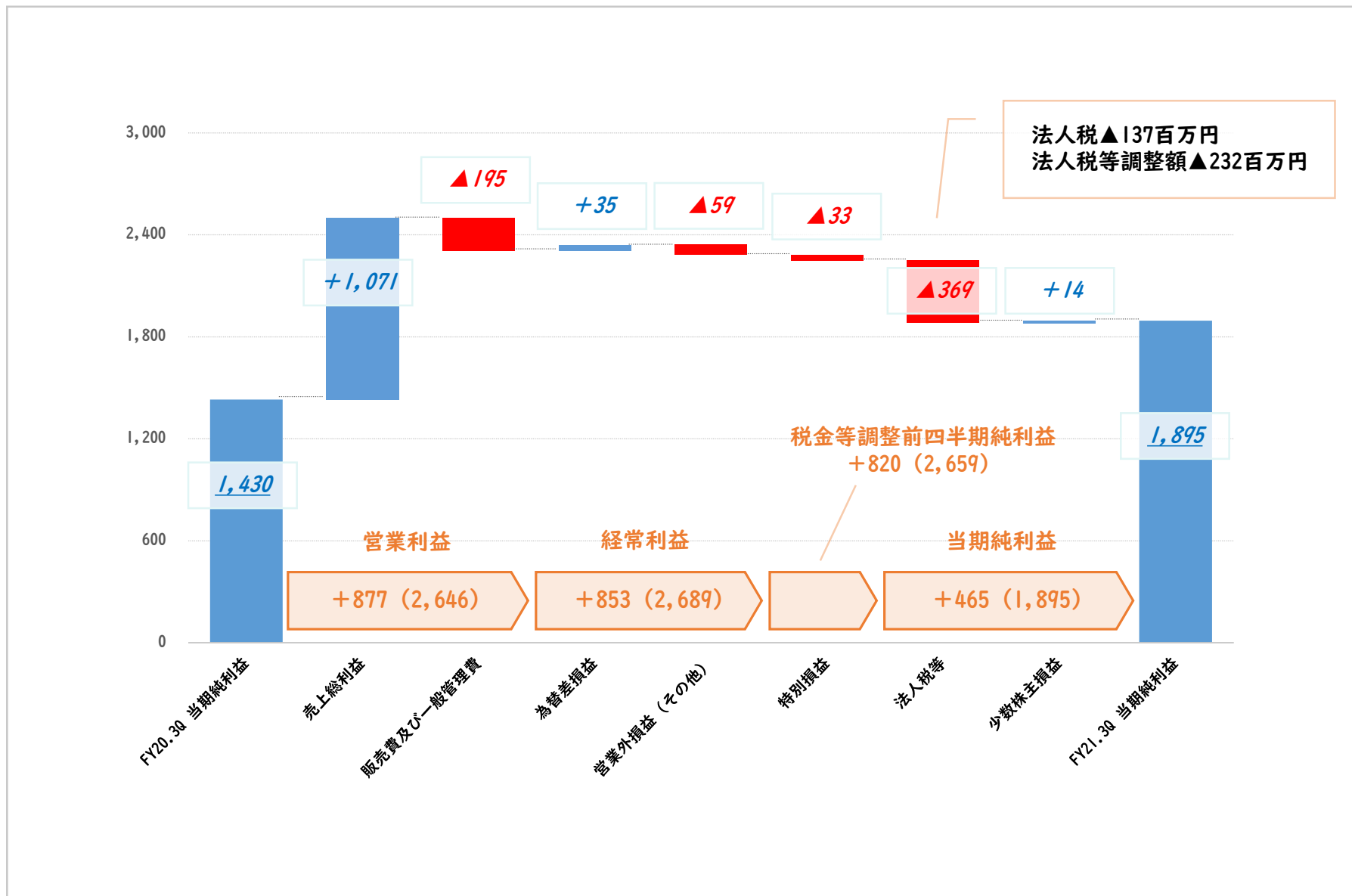
前年同期においてコロナ禍の影響により減収となっていた自動車向けシート用ヒータ線が半導体不足の影響もあるが今期は回復基調にあること、また、パソコン等の小型トランスに使用される三層絶縁電線が堅調に推移したことなどから前年同期比+2,288百万円（+30.5%）の増収となった。

デバイス分野



中国子会社の焼付線、プリンター等に使用されるフレキシブルフラットケーブルが巣ごもり需要で好調となったことや半導体パッケージ基板導通検査治具に使用されるコンタクトプローブの堅調に伴い、前年同期比+1,069百万円（+21.9%）の増収となった。

(百万円、%)	FY20.3Q	FY21.3Q	増減	増減率
売上高（連結）	12,467	15,791	+3,324	+26.7
電線・ヒータ分野	7,500	9,788	+2,288	+30.5
デバイス分野	4,879	5,948	+1,069	+21.9
その他分野	86	54	▲32	▲37.8



- ・ 営業利益は2,646百万円となり、前年同期比+877百万円（+49.5%）と増益となった。
- ・ 営業利益増減に含まれる為替変動による影響額+52百万円（電線・ヒータ分野+28百万円、デバイス分野+24百万円）

構成比

電線・ヒータ分野



銅地金価格や樹脂などの高騰による影響を受けたものの、前年同期において減収となっていた自動車向けシート用ヒータ線が好調に推移、また、半導体検査や半導体製造装置に使用されるケーブル、中国子会社のヒータ線が堅調に推移したため、前年同期比+742百万円（+79.0%）となった。

デバイス分野



中国子会社の焼付線、フレキシブルフラットケーブルおよびコンタクトプローブが好調に推移していることから売上高で大幅な増収となったことに加え、売上高を占める品種構成において高付加価値製品が伸長した結果、前年同期比+151百万円（+16.1%）の増益となっている。

(百万円、%)	FY20.3Q	FY21.3Q	増減	増減率
営業利益（連結）	1,769	2,646	+877	+49.5
電線・ヒータ分野	938	1,680	+742	+79.0
デバイス分野	942	1,093	+151	+16.1
その他分野	▲111	▲127	▲16	—

(百万円、%)	FY20	FY21.3Q	増減	増減率	増減要因
流動資産	15,991	16,603	+612	+3.8	流動資産（その他）
現金及び預金	9,843	9,624	▲219	▲2.2	
その他	6,148	6,978	+830	+13.5	売掛債権 +495百万円 棚卸資産 +459百万円 未収入金 ▲145百万円 等
固定資産	9,902	10,237	+335	+3.4	有形・無形固定資産
有形・無形固定資産	7,465	7,895	+430	+5.8	
投資その他の資産	2,437	2,341	▲96	▲3.9	設備投資 +1,081百万円 減価償却費 ▲699百万円 固定資産除売却 ▲24百万円 その他 +72百万円
資産合計	25,894	26,841	+947	+3.7	
流動負債	6,177	5,326	▲851	▲13.8	流動負債
固定負債	3,618	3,518	▲100	▲2.8	
負債合計	9,795	8,844	▲951	▲9.7	新社屋建設に伴う設備支払手形の支払い ▲1,074百万円 仕入債務 +154百万円 未払金 +260百万円 等
(うち、有利子負債)	2,359	2,333	▲26	▲1.1	
株主資本	15,226	16,942	+1,716	+11.3	株主資本
その他	872	1,055	+183	+20.9	
純資産合計	16,098	17,997	+1,899	+11.8	資本剰余金 +217百万円 利益剰余金 +1,491百万円 自己株式 +8百万円
負債純資産合計	25,894	26,841	+947	+3.7	
自己資本比率	60.7	66.4	+5.7	—	
Net Cash	7,483	7,291	▲192	▲2.6	

1. 決算概要	・ ・ ・	P.03
2. FY21配当金および業績予想	・ ・ ・	P.09
3. Appendix	・ ・ ・	P.11

- ・FY21の年間配当金は80.0円／株と予想（中間配当 30.0円／株、期末配当 50.0円／株）
最近の収益状況、財務体質の強化などを総合的に勘案し、配当予想を下表の通り修正しております。
詳細につきましては、同日に公表しました「配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご参照ください。
- ・FY21の業績予想は、2021年10月29日に公表いたしました「2022年3月期第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」に記載しております連結業績予想から変更ございません。

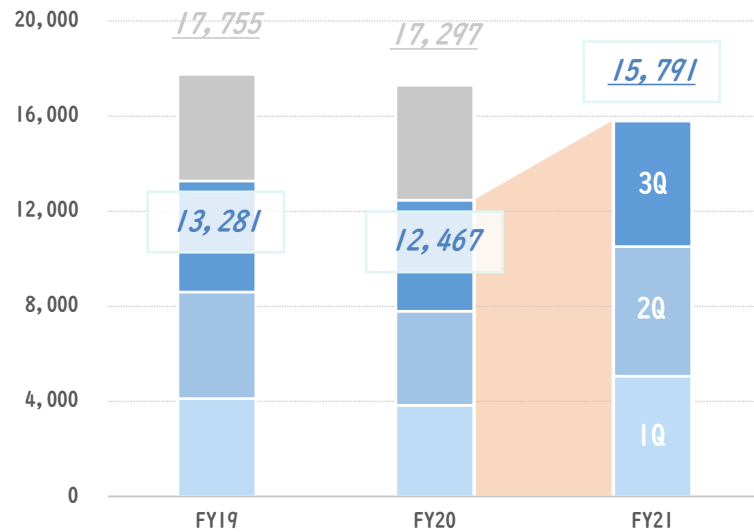
配当金（円、銭）	中間配当	期末配当	合計	総額（百万円）	配当性向（％）
FY19	30.0	30.0	60.0	405	34.3
FY20	30.0	30.0	60.0	404	22.4
FY21（予想）	30.0	50.0	80.0	—	27.3

業績予想（百万円、％）	FY20 実績	FY21 予想	増減	増減率
売上高	17,297	19,700	+2,403	+13.9
営業利益	2,483	2,800	+317	+12.7
経常利益	2,538	2,810	+272	+10.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,801	1,970	+169	+9.3

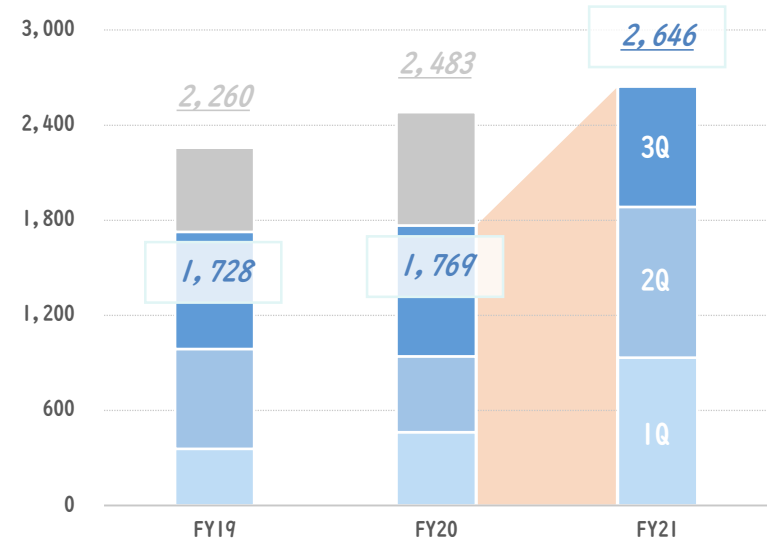
将来に関する記述につきましては、当社が現時点で入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などは様々な要因により異なる可能性があります。

1. 決算概要	・ ・ ・	P.03
2. FY21配当金および業績予想	・ ・ ・	P.09
3. Appendix	・ ・ ・	P.11

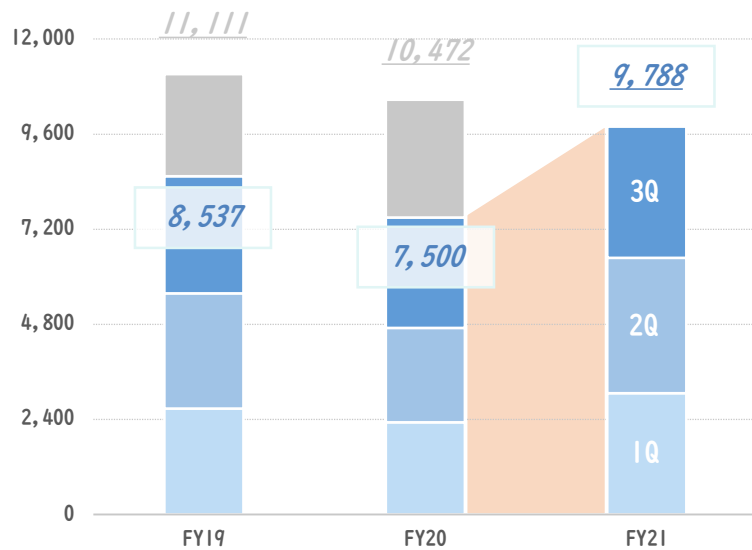
売上高（百万円）



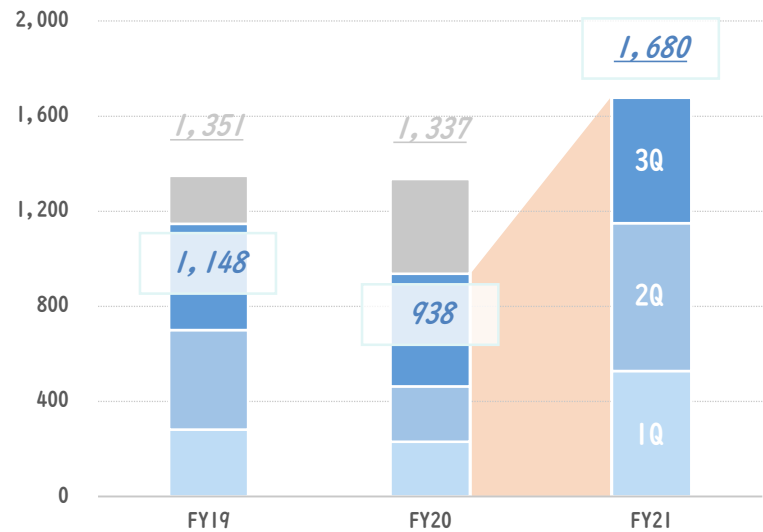
営業利益（百万円）



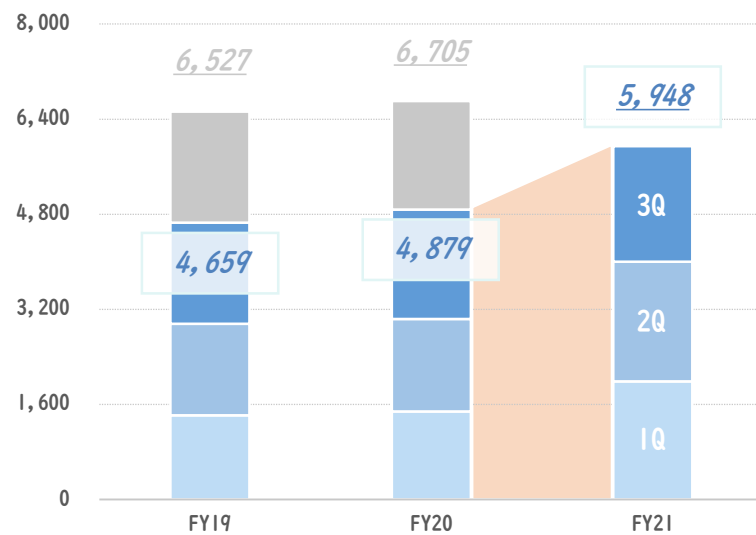
売上高（百万円）



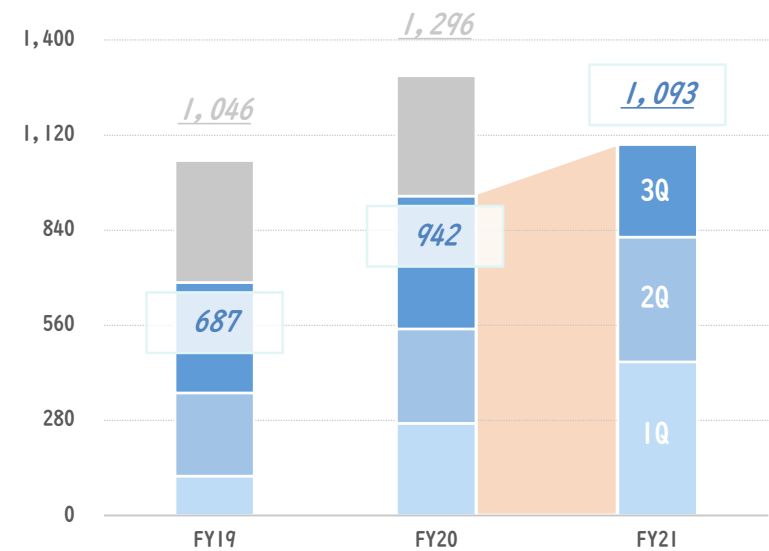
営業利益（百万円）



売上高（百万円）

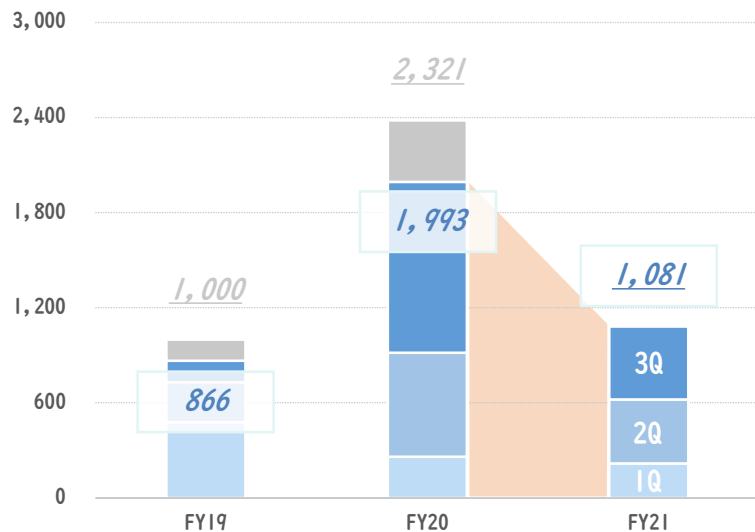


営業利益（百万円）



- ・設備投資は前年同期比▲912百万円（当社▲998百万円、連結子会社+86百万円）の1,081百万円となった。当社での減少については、主に前年同期では新社屋建設に伴う設備投資が計上されたことによる。
- ・減価償却費は生産設備などの取得に伴い、前年同期比+91百万円の699百万円となっている。
- ・研究開発費については主に当社での増加に伴い、前年同期比+13百万円（当社+12百万円、連結子会社+1百万円）の195百万円となった。

設備投資（百万円）



研究開発費（百万円）

